

嘉手納騒音 100デシベル超 6回

外来機集中 住民ら苦情

【嘉手納】米軍嘉手納基地から発生する騒音が、9日に100デシベル超を6度記録

するなど激化していることが16日、町の測定結果で分かった。同基地では、暫定

配備されたステルス戦闘機F22ラプター12機が8日から訓練を実施しているほか、同時期にFA18戦闘攻撃機10機やAV8Bハリア

16機も飛来し、外来機が集中。住民からは「心臓がドキドキして苦しい」などと、被害を訴える声が増えている。

同町の測定によると、9日に滑走路に近い屋良地域で最高102・3デシベルを記録

するなど、100デシベル超を6度計測。90デシベルは21度に上った。F22は6カ月配備が予定されており、同レベルの騒音が続く懸念もある。

9、10の両日、町には住民から「夕飯時に、いつもと違う爆音が出てイライラした」などと7件の苦情が寄せられ、町は文書で沖縄防衛局へ騒音軽減を要請した。

当山宏町長は「外来機がこれだけあると離着陸数も多い。この騒音が続くとはまらない」と反発。すでに嘉手納飛行場に関する三市町連絡協議会（三連協）でも文書で抗議しているが、町独自でも検討する考え。

沖縄市基地対策課にも8日以降、住民からの苦情が10件寄せられた。

市知花の島袋貞子さん（68）は「いろいろな戦闘機が大きな音を鳴り響かせて飛んでいるので、何か恐ろしいことが起きているのではないかととても不安になる。会合などでは自分をめがけて落ちてくるんじゃないかと話題になっている」と憤った。